

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)NTB京都宮津 新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		評価点		重み係数		全体	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>						<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.4</b>	<b>0.15</b>	<b>2.6</b>	<b>1.00</b>				<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音		<b>5.0</b>	0.40	<b>3.2</b>	0.40				
1 開口部遮音性能	遮音性能T-2	5.0	1.00	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能				3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20				
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.2</b>	<b>0.35</b>	<b>2.4</b>	<b>1.00</b>				<b>2.3</b>
2.1 室温制御		<b>3.5</b>	0.50	<b>3.8</b>	0.50				
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57				
2 外皮性能	断熱性能の高い外皮材料を使用	5.0	0.25	5.0	0.43				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38						
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	<b>0.25</b>	<b>3.8</b>	<b>1.00</b>				<b>3.6</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	<b>0.30</b>	<b>4.2</b>	<b>0.30</b>				
1 昼光率	昼光率≥2.5%	5.0	0.60	5.0	0.60				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40				
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30				
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15				
3.4 照明制御	宿泊部分:室内の複数部分に対してスイッチで細かい制御が可能	<b>3.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.4</b>	<b>0.25</b>	<b>2.7</b>	<b>1.00</b>				<b>3.0</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63				
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00				
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	<b>2.3</b>	0.38				
1 換気量	宿泊部分:基準の1.4倍以上の換気量を確保	3.0	0.50	5.0	0.33				
2 自然換気性能				1.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	1.0	0.33				
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00						
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>						<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40	<b>4.2</b>	<b>1.00</b>				<b>3.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60				
1 広さ・収納性				3.0	0.50				
2 高度情報通信設備対応	宿泊部分:Gbitクラスのブロードバンド環境整備			5.0	0.50				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00						
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.30	<b>4.5</b>	0.40				
1 広さ感・景観	天井高2.60m			4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画	建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画	5.0	1.00	5.0	0.50				
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30						
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保	清掃用具室の設置等、維持管理のしやすさに配慮した計画	4.0	0.50						
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	<b>0.30</b>						<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材を使用	4.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		<b>2.4</b>	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.7</b>
3.1 空間のゆとり			3.0	-	2.0	0.50	
1 階高のゆとり							
2 空間の形状・自由さ			-	-	2.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり			-	-	2.0	0.40	
3.3 設備の更新性			-	-	3.0	0.50	
1 空調配管の更新性			3.0	1.00	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみ調和に配慮した景観計画	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		空間提供による地域貢献、防犯性への配慮等	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm: 0.82	4.8	0.20	-	-	4.8
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.64	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、自動水栓等に加えて、省水型機器(低音装置付)を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		杭に高炉セメントB種を採用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能な構造を採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 地球温暖化への配慮		LCCO2低減率30%	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			1.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	